

佐賀県研究成果情報

ニホンナシ「新高」のみつ症発生防止技術					
[要約]ニホンナシ「新高」のみつ症は、8月から9月の適度なかん水、9月から1か月間の遮光、交配後20日頃の小さな袋掛け、カルシウム剤散布により軽減できる。					
果樹試験場・落葉果樹研究室・熊本農研セ・高知農技セ				連絡先	0952-73-2275
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対象	ナシ

[背景・ねらい]

ニホンナシ「新高」は、みつ症が発生しやすく、年によっては激発し大きな問題となっている。そこで、みつ症の発生要因を明らかにするとともに、発生防止技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 「新高」のみつ症発生には、8月以降の土壌乾燥と高温が大きく影響しており、8月から9月にかけての適度なかん水はみつ症を軽減する効果がある(表1、表2)。
2. 9月から1か月間の遮光資材の被覆は、みつ症の発生を大幅に軽減することができ(図1)、果実品質は殆ど損なわれない。
3. 交配後20日頃にパラフィン一重の小さな袋を掛けを行うことでみつ症の発生を軽減でき、果実品質は肥大が良好になる。
4. 交配後10日から10日間間隔で5回、さらに交配後100日から10日間隔で5回複合カルシウム剤の散布を行うことによりみつ症の発生を軽減できる。

[成果の活用面・留意点]

1. 8月から9月にかけてのかん水が過度になると、ていあ部の亀裂発生を助長することがあるので注意する。
2. 遮光処理は、遮光率が22%以上であったり、低日照の気象条件下では果実品質が低下する場合もあるので注意する。
3. カルシウム剤の効果は、園地や年次間で差があるとともに激発したときには必ずしも効果が十分でない場合もある。

[具体的データ]

表1 「新高」ポット植樹の高温処理とみつ症の発生、果実品質(1999熊本農研セ)

	みつ指数1)	果肉硬度(lbs)	糖度(Brix)
5月高温処理区	0.0	4.6	12.9
7月高温処理区	0.0	4	12.6
9月高温処理区	3.0	1.8	13.9
無処理	1.5	2.8	13.9

表2 「新高」樹の夏期かん水処理、マルチ処理とみつ症の発生(1998 熊本農研セ)

処理区	みつ指数			
	0	1	2	3
かん水1)	62%	14%	11%	13%
マルチ2)	17	7	23	53
無処理	12	10	25	53

表3 「新高」樹の遮光処理とみつ症発生(1998高知農技セ)

処理区	調査果数	発生果数	発生比率 %	みつ指数			
				0	1	2	3
22%遮光	54	2	4	52	1	0	1
無処理	58	20	34	38	18	2	0

表4 「新高」果実への小袋掛けによるみつ症発生軽減効果(2000 佐賀果試)

処理区	みつ指数				平均みつ指数	重症果率 %
	0	1	2	3		
小袋掛け	62.0	26.0	12.0	0.0	0.5	12.0
無処理	48.0	28.0	20.0	4.0	0.8	24.0

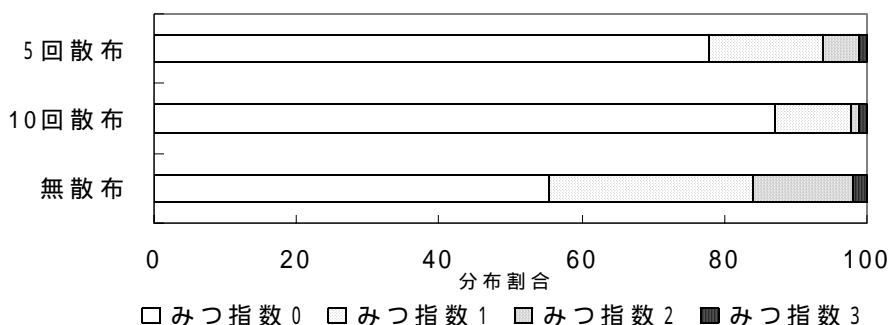


図1 「新高」樹へのカルシウム剤散布によるみつ症軽減効果(2000大分農技セ)

[その他]

研究課題名：西南暖地の特性を活かした晩生ナシの超高収益栽培技術の開発

予算区分：助成試験（新技術地域実用化）

研究期間：1997～2001年度

研究担当者：熊本県、長崎県、大分県、高知県

佐賀県：稲富和弘、松瀬政司、福田浩幸

発表論文等：平成13年度佐賀県果樹試験場業務年報